

はじめに

筑波大学大学院人間総合科学研究科世界遺産専攻と生命環境科学研究科は、幅広い学際的な知識を身につけるとともに、野外でのフィールド調査、国際機関でのインターンシップ経験をもとに、自然保護の場で活躍できる人材を育成するため、2014年に自然保護寄附講座を設置した。

自然保護寄附講座では、大学院生を対象とした自然保護サーティフィケートプログラムのほか、市民を対象とした公開講座も実施している。指導にあたるのは、自然保護寄附講座専任教員のほか、本学の世界遺産専攻、生命環境科学研究科に所属する教員、外務省や環境省で環境問題に取り組んできた方々、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ；UNESCO）、国際自然保護連合（IUCN）等で国際的な問題に取り組む職員などさまざまである。また、オーストラリアのタスマニア大学、ディーキン大学と国際交流協定を結び、世界遺産や海洋研究に関する交流も実施している。自然保護の現場でのインターンシップにも力を入れ、IUCN、同日本委員会をはじめ、環境省、世界自然保護基金（WWF）ジャパン、日本野鳥の会、日本自然保護協会、トヨタ白川郷自然学校などにおけるインターンシップを支援している。

自然保護サーティフィケートプログラムが取り扱うテーマは、自然保護の歴史や概念のほか、生物多様性、地球環境、森林、草原、海洋、野生生物、保護

地域、自然遺産、文化的景観、ジオパーク、エコツーリズム、国内法、国際条約などさまざまな分野にわたる。

本学では、1986年度より農林学類（現生物資源学類）において故糸賀黎教授^{いとがれい}による「自然保護論」が開講され、1995年度まで続いた。また、1977年4月に設置された環境科学研究科においては、「環境保全学概論」、「景観計画論」、「緑地保全論」などが開講された。なお、環境科学研究科ではフィールド実習を重視し、キャンプ主体の「自然環境野外実習」が南アルプス（1984）、白神山地（1985-89）、白山（1990-93）、屋久島（1994-96）、白神山地（1997-99）、屋久島（2000-02）で実施された。これらの講義や実習の成果は「環境科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」として1989年に出版され、故糸賀黎教授は「自然保護」の章を担当されている。

しかし、2008年に環境科学研究科が、生命環境科学研究科に統合されて以降は、自然保護に関する講義が行われなかったため、自然保護をめぐる最新の情報をもりこんだ包括的なテキストがないことが問題となっていた。

本書は、これまでの自然保護寄附講座での授業や実習をもとに、自然保護サーティフィケートプログラムのテキストとすることを目的として編集したものである。

2017年4月からは、学群生向けの総合科目として「自然保護学入門」を開講している。自然保護寄附講座や総合科目「自然保護学入門」で学ぶみなさんが、最初のステップとして本書を活用し、さらに学びを深めていくことを期待する。

また近年は、筑波大学の公開講座や自然保護団体が主催する公開セミナーにおいても、エコパーク・ジオパークや生物多様性・気候変動などの地球環境問題に関心をもつ、一般社会人の方々の参加が増えている。本書は、そのような一般の読者にとっても、わかりやすい自然保護の入門書となり、さらに深く学ぶための導入として読んでいただけるものと思う。

本書の構成および学び方について

本書は、第1部：自然保護総論、第2部：自然保護の対象となる自然とその仕組み、第3部：自然保護を実現するための仕組みの3部構成になっている。

まず、第1部：自然保護総論では、「自然保護」という言葉の定義とその歴史を通して、どのようにして「持続可能な開発」や「生物多様性」の概念が発展してきたかを学習する。

次に、第2部：自然保護の対象となる自然とその仕組みでは、「自然保護」の場である地圏、水圏、気圏、生物圏という分類に従って、まず地球環境の基盤である地形のもとになる地質の成り立ちを理解し、その上で地球上の生物圏を陸域・海域に分けて概説する。さらに、生物圏、気圏にまたがる自然保護の課題として、気候変動・海洋酸性化、生物多様性の問題を取り上げる。

最後に、第3部：自然保護を実現するための仕組みでは、自然保護を実現するための具体的な仕組みとして、自然保護に関する法制度、保護地域、野生生物管理、エコツーリズム、景観保護、遺産保護における人と自然との関係を取り上げ、最後に自然保護に関するモニタリング調査法を説明する。

自然保護を学ぶ学生は、まず第1部、第2部を読んだ上で、第3部の必要な章を読むことを勧める。一般社会人の読者で、すでに基礎的な知識をおもちの方は、第3部の任意の章から読みはじめて構わないが、第1部や第2部には、持続可能な開発、生物多様性、気候変動・海洋酸性化など、地球環境問題の重要なキーワードがどのようにして生まれてきたかが説明されているので、必要に応じて、読み返していただきたい。